

進路指導室へようこそ2

前橋女子高校進路指導部

令和6年度 MJ 進路通信 第25号

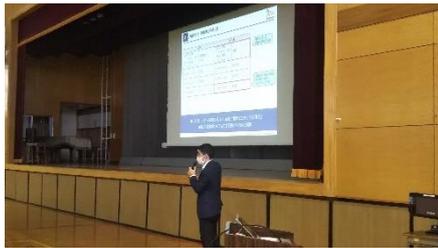
令和6年9月13日(金)発行

■ 2学期を上手に過ごそう

2学期は、1年間の中で最も長い期間であり、「勉強の秋」「読書の秋」「運動の秋」「食欲の秋(笑)」と、何をやるにも充実した取り組みができる時期でもあります。充実した2学期を送るにあたり、学年毎に意識したいポイントをまとめてみました。

1学年 高校生としての生活を確立しよう

ベネッセコーポレーションから講師の先生をお招きし、進路講演会を開催しました(写真は昨年



のものです)。高校での学習、全国規模の模試、と中学時代とは速さも規模も異なる環境に戸惑いもまだあると思いますが、今後の学習の取り組みについて具体的にアドバイスをいただきました(講演の概要は次号で紹介します)。講演をふまえ、今後の生活で心がけたいのは

①受験を意識した早めのスタートが大切

- ・3教科の学力をバランス良くつけること
- ・志望理由を自分の言葉にして言えるようにすること

②とにかく授業を大切にすること

- ・「授業→復習→予習」の黄金サイクルをつくる
- ・繰り返しの復習が定着を高める

③校外模試の成績表の正しい見方を知る

- ・全国の出来と比べて得点できていない分野はどこか
- ・振り返りノートをきちんとつくる

7月から11月は成績が大きく変動する時期(高校に入ってからが11月で問われる)。今頑張って1年間のいい流れをつくりましょう。

2学年 学習を「質」「量」両面から見直そう

2年生はこの2学期が学習の折り返し点。修学旅行もあり、高校生活の充実感を味わえる時期でもあります。11月の模試からは5教科型になり、大きな切り替えが求められます。よく「修学旅行後が受験生に切り替えるタイミング」と言われますが、これは「そこまではのんびりしていいよ」という意味ではありません。突然受験生にはなれないんです。日頃から少しずつ意識を高めていくことで本格的な学習の備えができます。今から自分の学習の「質」と「量」について改善ができないか考えてみましょう。



★読書の秋、だからではないですが・・・赤本を見よう

赤い表紙の参考書、通称「赤本」。大学の入試問題を収録したもので受験生必須の参考書といえます。憧れの志望校については今年のうち1冊買ってみるのもお勧めです(当然+1年分過去問を手に入れることができます)。入試問題だけでなく大学の様子や合格体験談、就職情報など様々な情報が掲載されています。自分の部屋の目につくところに置けばモチベーション↑。進路指導室および廊下にも閲覧用に置いてありますので手に取って見てみましょう。



3学年 まず生活を受験生モードにしよう

①朝のSHRを大切にしよう

朝のSHRは、入試に関わる重要な連絡が多くなります。連絡を聞き漏らした結果、大切な申込みに間に合わなかったりしては大変。一切の聞き漏らしのないようにしよう。加えて、朝のSHRはクラス全員で「**今日も1日みんなで頑張ろう**」と誓いあい、励ましあう場でもあります。

②健康管理をしっかりしよう

入試本番で実力を発揮するためには体調管理も欠かせません。本番直前のみならず日頃から風邪をひかないための努力を惜しまぬよう。睡眠不足や朝食抜きなど論外。コロナだけでなくインフルエンザの対策も。

③正確な情報に振り回されない

「塾の友人が…」「ネットの情報では…」不安が高じて、根拠のない情報に振り回されてはいけません。これからは**ふれずに信念を貫くことが大事。信じられるのは自分が積み上げた努力量だけ**です。易きに流れて志望校を簡単に変えたり科目を減らしたりするのは一瞬楽になった気になります。後になって後悔することもあります。

■自己採点って、何のためにするの？

I D	氏名 ※本人の名誉のため非公開とします	英語		国語	数学			地理・歴史			公民			理科					誤差計
		リーディング	リスニング		数学ⅠA	数学ⅡB	日本史B	世界史B	地理B	現代社会	倫理	倫・政	物理基礎	化学基礎	生物基礎	物理	化学	生物	
1		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	3
2		0	0	0	0	-5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
3		0	0	5	2	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
4		0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
5		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
6		0	0	0	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
7		0	0	-6	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
8		0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
9		0	0	0	12	-4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
10		-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
11		-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
12		0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
13		0	0	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
14		0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
15		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
16		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
17		2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
18		-3	0	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
19		0	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
20		0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
21		0	-4	0	-5	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
22		3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
23		4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
24		0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
25		0	0	0	0	2	0	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5
26		0	4	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
27		0	0	-8	0	-3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	11
28		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
29		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
30		0	0	0	-2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
31		0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4

「自己採点-実際の得点」の値。つまり、プラス→実際はもっと低かった（これはやばい）、マイナス→実際はもっと高かった

模試が終わると必ず自己採点の作業があります。3年生はマーク模試が終わると自己採点の集計を行い、成績が返却されると照合を行います。その理由は、国公立大や共通テスト利用私大の受験では、自己採点に基づき出願を行うため、正確な得点把握が必要だからです。特に選択肢から選ぶだけのマーク式の試験では絶対に間違えるはずがない、と言いたいところですがそれがなかなか難しい（だから毎回練習するのです）。実は昨年度の卒業生に依頼して共通テストの開示結果を提供してもらったのですが、提供者69名のデータのうち、自己採点が開示結果と一致した生徒はわずか38名（55%）しかいませんでした（データ提出に協力してくれた「律儀な（≡しっかりしている）」生徒ですらこの結果ということは、全体の割合としてはおそらくもっと少ないはず）。上の表は自己採点ミスがあった生徒のリストで、30名以上の生徒（45%）が自己採点に間違いがあり、中には16点もの誤差があった生徒も。こうなると出願の材料としては何の役にも立ちません。だからこそ、日頃から自分のマーク（答案）をきちんと採点する練習が不可欠なのです（記述模試についても自己採点が正確な人は、その問題のポイントがしっかり分かっている人だといえます）。さて、8月に行われた3年生の共通テスト模試。自己採点の結果と実際の得点の照合率は・・・

受験者260名（自己採点提出者229名）中、誤差なしの生徒は

19名（7.3%）

ちょっとまずいですよね。もはや事故採点（駄洒落を言っている場合ではない!）。

なお、大学入試センターより、来年度の共通テストの出願が各自のweb形式の出願になることが発表されました。今までのように学校で書き方含めチェックをしてもらって、学校にお任せの出願ではなくなります。そういう意味でも、課せられたミッションを確実にこなす意識はますます大切になりますね。